

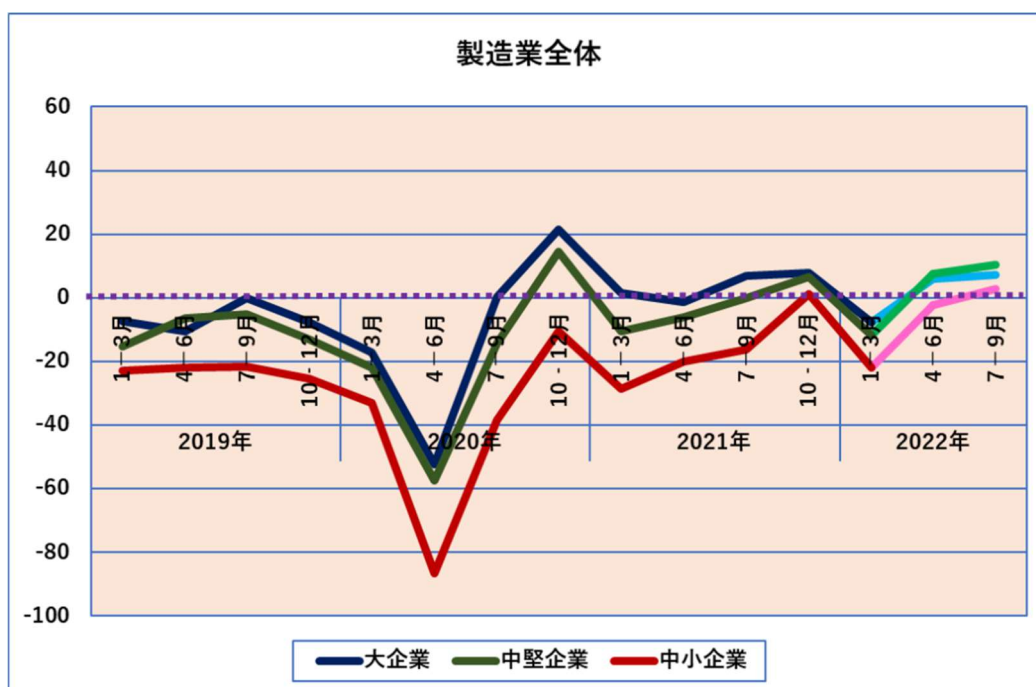
法人企業景気予測調査の結果・経営者が評価した現時点の自社の景況感

2022.3.15

3月11日に「法人企業景気予測調査」の2022年1-3月度の調査結果が発表になりました。この調査は、四半期毎に全国の14000社ほどの会社に調査票を送り、11000社を超える会社から得た回答を集計しているもので、経営者が自社および国内の景況をどのように見ているかを示す指標として有用なものと考えられています。

今回調査は、2月15日を調査時点として、1-3月(当期)および4-6月(次期)、7-9月(次次期)の景況を対前期比での「上昇」、「不変」、「下降」、「不明」の四択で回答したものを集計しています。そして景況感はBSI(上昇-下降の数値)で表されます。値がプラスであれば景気が良いと感じていることを、マイナスであれば景気が悪いと感じていることを示しています。

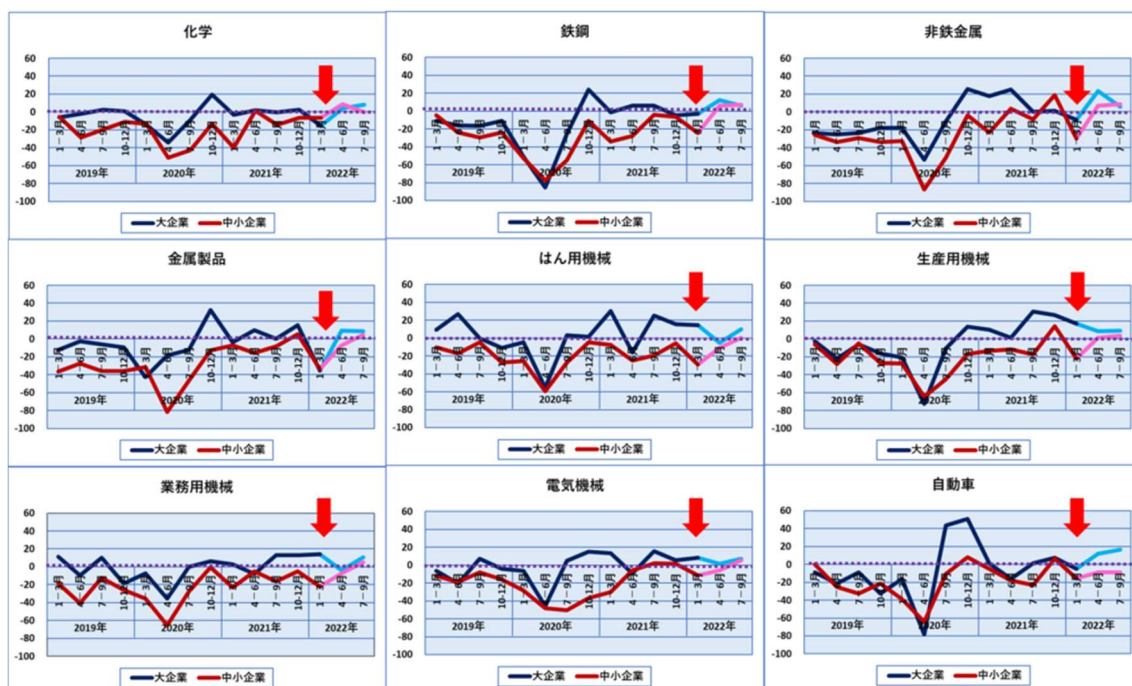
当期(1-3月)については第6波の襲来もあり、マイナスであろうことは容易に想像できますが、そこはこれだけの数の調査結果ですので、その結果はある程度の定量性を有していると期待されます。つまり現在の景況感の感じ方は過去3年間のうちのどのあたりと同じと感じているかということを見てみたいと思いグラフ化してみました。まずは製造業全体からです。



製造業の経営者の皆さんは当期の景況感は、昨年同期よりも幾分マシであると感じているようです。そして、来期(4-6月)と来々期(7-9月)は景気が回復していくと予想しているようです。実際にこの通りになればと願います。

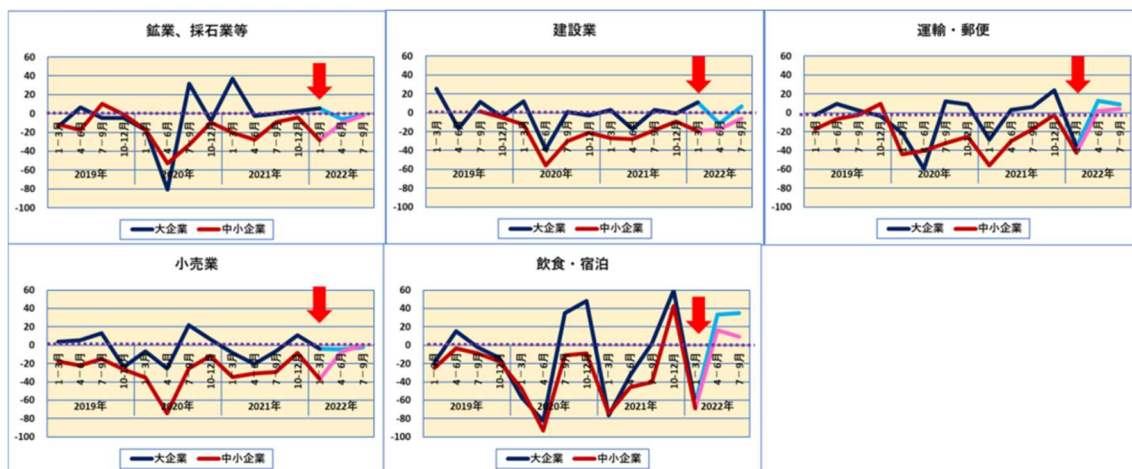
この調査ではせっかく業種別の景況感も示されていますので、これも過去3年の推移の中での位置を見ていきたいと思います。それでは塗料に関係の深そうなもの+αの業種別BSIの推移をご覧ください。

製造業からグラフを示します。



これらのグラフにおいて当期の位置は赤い矢印で示しており、それよりも右側の色の違う部分は来期以降の予測です。いつもながら大企業と中小企業とで幾分数値は違っていますが、総合的に見て当期の状況を比較的深刻に受け止めているのは、金属製品や非鉄金属ではないかと思われます。ただしすべての業種において2020年の第1波ほどの不況感を感じていないという回答となっています。第6波において感染者は確かにこれまでと比較にならないほど多かったものの、コロナ自体に慣れたこともあり、意外に景況感への影響は少なかったように見えます。また来期や来々期についても、ほぼすべての業種でプラス側に転じるとしているようです。

次に非製造業を見てみましょう。



こちらでは、運輸郵便、小売業、飲食・宿泊業が厳しい景況感を示しています。特に毎回のよう蔓延防止措置の対象となっている飲食業は規模の大小を問わず BSI が-70 を超えています。運輸郵便、小売業も BSI 値が-40 を下回りました。製造業でここまで厳しい景況判断は見られませんでした。

今回の調査にウクライナ侵攻は反映されていないと思いますが、それを含めると今日の時点の景況感 はさらに悪化しているのではないかと懸念します。